

(院内) 感染対策

病院に入院されている患者さんの多くは体の抵抗力が低下し、通常では病気を起こさない微生物による感染症（日和見感染）や抗生物質が効きにくい細菌（多剤耐性菌）による感染症の危険性が高いといわれています。

入院中に新たな感染症にかかると、本来必要でない治療を行わなければならない、患者さんに大変な不利益をもたらします。また血液のついた針などを刺して医療従事者が肝炎にかかることや、患者さんから結核症や麻疹などに感染することも院内感染に含まれます。

(院内) 感染対策は病院内で患者さんと職員を守る医療安全対策の一つで、安全な医療の提供と信頼を確保するために重要といわれています。

ICT (Infection Control Team) : 感染対策チーム

デジタル大辞泉によると「医療施設において、感染症の予防・制圧に取り組む専門職のグループ。感染対策の専門知識を持つ医師（インフェクションコントロールドクター）、看護師（感染管理看護師）、薬剤師（感染制御専門薬剤師）、臨床検査技師（感染制御認定臨床微生物検査技師）などで構成される」と言われています。

ICT (感染対策チーム) の紹介

感染対策室主任部長

兼小児科医員 有田耕司

当院では平成 15 年に院内感染対策委員会の下部組織（実働部隊）として、感染対策チームが発足しています。当初は耐性菌、血液感染のサーベイランスと不定期の病棟、外来ラウンドを細々と行っていました。平成 19 年に病院長の直属の部門として「感染対策室」を立ち上げ、本格的な活動を開始しました。

現在のメンバーは医師 4 名、看護師 2 名、薬剤師 1 名、臨床検査技師 1 名の計 8 名で、それぞれが専門家としての自覚を持って働いています。病棟ラウンドを週 2 回（時に外来や中央処置室などもラウンド）を行い、院内感染対策上問題となる病気（ディフィシル菌感染症や多剤耐性菌感染症など）の発生状況のチェックと標準予防策（手指消毒など）や環境感染管理が適切に行われているか確認し、指導を行っています。また耐性菌を増やさないために抗菌薬の適正使用について、薬物血中濃度測定（TDM）などを行いながら、主治医の相談に乗っています。その他消化器外科領域を中心にして手術部位感染症（SSI）のサーベイランスを兼ね、週 1 回の SSI ラウンドを行っています。周術期抗菌薬の種類と投与期間の適正化、皮膚消毒法の変更などにより SSI の減少を心がけています。平成 24 年 4 月からは「感染防止対策加算 1」が算定できるようになり、伊丹市とその周辺の病院間の連携も行うようになりました。ICT は「咳エチケット」や「手指衛生」のキャンペーンな

どの活動を行っていますが、緩和ケアチームなどと異なり直接患者さんの診療は行っていません。将来は感染症診療を行い、感染症に関する話題や情報の発信も行っていきたいと思っています。

関連リンク

厚生労働省 法令・通知等

平成 23 年 6 月 17 日 「医療機関等における院内感染対策について」

参考資料より

http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/isei/i-anzen/hourei/dl/110623_4.pdf